



【新規 JICA ボランティアの皆さんによる渡辺副市長表敬訪問の様子】

ヨコハマの国際事業の
主な動きをお届けする

YOKOHAMA INTERNATIONAL DIGEST

平成 28 年 10 月 6 日
【発行】横浜市国際局政策総務課
企画担当 045-671-3826
ki-somu@city.yokohama.jp

仁川広域市から視察団が来浜しました

9 月 26 日に、仁川広域市から都市計画局の職員、大学教授、民間企業エンジニア等の方々が横浜市役所を訪問しました。

仁川市では、ソウル～仁川間の道路機能の改良を進め、2 都市の生活圏をつなぐことで、都心の活性化を図る事業を進めており、今回の訪問で、これまで横浜市が推進してきた都市開発について説明を受けたいとの要請がありました。

本市都市整備局、環境創造局からは、「アメリカ山公園、新横浜駅、東急東横線の跡地利用」の事業内容や、事業を推進する中で直面した課題やその解決策、地域経済への波及効果などについてご紹介しました。



(視察団への本市施策説明の様子)



汚泥処理施設の建設事業についての事前調査に参加しました

9 月 20 日から 29 日まで、JICA 職員と共に本市環境創造局と国際局が、フィリピン共和国セブ市を訪問しました。

本市が JICA に提案したセブ都市圏の汚泥処理施設の建設事業に関して、本市環境創造局と国際局が JICA の事前調査に参加し、現地の行政機関等との協議を行いました。セブ市では、家庭から排出される汚泥が河川に流出したり、地下への浸透によって地下水が汚染されたりする可能性が指摘されており、この事業により汚泥が適切に処理・浄化されることが期待されています。



(協議の様子)



(事前調査の様子)

青年海外協力隊の皆さんが渡辺副市長を表敬訪問しました

JICA では、開発途上地域の経済・社会の発展や復興に協力するため、1965 年から海外にボランティアを派遣しています。派遣は毎年 4 回にわたり実施され、全国から約 1,000 名、横浜市内からは 40 名前後の方々が海外に派遣されています。また、JICA の青年海外協力隊事業は、長年の功績が認められ、本年 7 月にはアジアのノーベル賞とも称されるラモン・マグサイサイ賞(※)を受賞しました。

今回、派遣される青年海外協力隊 11 名、シニア海外ボランティア 2 名、計 13 名の新規派遣ボランティアの皆さんが、9 月 20 日に渡辺副市長を表敬訪問しました。隊員の皆さんから、抱負など出発前の挨拶をいただくとともに、渡辺副市長からは、隊員の皆さんに激励の言葉が贈られました。

※アジアのノーベル賞と呼ばれる「ラモン・マグサイサイ賞」は、フィリピンのラモン・マグサイサイ大統領を記念して創設された賞で、毎年アジア地域で社会貢献などに傑出した功績をあげた個人や団体に対し、贈られます。昨年 50 周年を迎えた青年海外協力隊の、現地の人々と生活し、共に働くという理想と精神に基づいた、これまでのアジア地域の経済と社会の発展への貢献が認められ、今回の受賞となりました。